

新時代の到来 ～変革の波を乗り越えて～

佐賀県土木づくりコンサルタンツ協会会長

佐々木 義文



新年明けましておめでとございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。

本年は今上天皇が御退位され、皇太子殿下が御即位される新しい時代の幕開けの年であり、我々業界が生まれる起源となる近代測量を行う機関が政府に設置された明治2年から起算して満150年の年にも当たります。

さて、昨年から日本版GPS「みちびき」が4機体制での運用開始、通信大手が橋梁や発電所、送電鉄塔などの老朽化対策として、ドローンによる新サービスの表明、国においては、国が目指すべき未来社会の姿として、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムS

私たち『佐賀県土木づくりコンサルタンツ協会』は、昨年末でたく満四十年を迎えることができました。しかし、平成三十

ociety5.0（ソシエティ5.0）（超スマート社会）が提唱され、これによってi-Constructionを

「深化」させ、建設プロセス全体を3次元データで繋ぎ、新技術、新工法、新材料の導入、利活用を加速化させるとされており、測量・設計の分野においても3次元化が一層推進されるなど、我々業界にも変革の波が押し寄せる年になると感じています。

今年も、3次元化に向けてi-Constructionへの取組みを一層進めて参りますとともに、県民の皆様の日々の安全な暮らしを支えるため、社会資本の整備や災害時の対応、事故を未然に防ぐための点検・調査・設計・補償等、そして最新の技術を使つての業務遂行など、社会資本の管理者の皆様から、更には県民の皆様から信頼される『暮らしを守るパートナー』として頑張つて参る所存でございます。

最後になりましたが、皆様方の益々のご健勝とご発展を心から祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

県民の安全と 県土の保全に貢献

佐賀県地質調査業協会理事長 原 裕



新年明けましておめでとございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。

まずは、当協会の業務運営につきまして、かねてから、ご協力、ご支援をいただき厚く御礼申し上げます。

私たち協会の会員は、地域の地盤状況に最も精通し、多くの経験と有した有資格者を配置し、最も身近な国土交通大臣登録の地質調査業者であります。

近年、全国各地で地形、気象などの自然的条件から、台風、

豪雨、地震による大規模な土石流、がけ崩れ、地すべり等の土砂災害が発生しており、九州においても平成28年4月の熊本大地震、平成29年7月の九州北部豪雨、平成30年7月豪雨、昨年9月末の台風24号等により、大規模な土砂災害が発生しております。

このような中、防災・減災、老朽化対策の推進や社会資本の計画的な維持管理・更新に果たす地質調査の役割は、年々重要なものとなっております。地質調査業者の社会的責任も益々重大なものとなってきております。

今後、協会会員一体となつて、ジオ・ドクター（地盤の主治医）として、県民の安全と県土の保全に貢献してまいり所存でございますので、皆様の温かいご指導・ご支援をお願いいたします。

次世代につなぐ、 魅力ある業界へ

佐賀県建造物解体業連合会会長 中島 功



新年あけましておめでとございます。謹んで新春のお慶び

申し上げます。

そうした中、災害復旧に、建設業界、産業廃棄物業界、そして、我々の解体工事業界も復興にかかわつてきた業種かと思つていられる所です。又、災害現場にて被害に見舞われた建物界の発展に努め、「次世代につなぐ、魅力ある業界へ」と努力を、二次災害が無いように安全に工事を進めて行く事と、我々解体工事専門業としての施工技術とを最大限に発揮する事と共

最後にありますが、今後関係者各位、皆様方のさらなる発展とご健勝を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

これから先、私共、解体工事業界は官民の方々より非常に注

